



一日防災教室

本校では、防災の日である9月1日の本日、一日防災教室を実施しました。幼稚部、小学部、中学部の発達段階に合わせて様々な取組と避難訓練をセットで行う一日です。

全国では、地震や津波、大雨による洪水、土砂災害、火事や山林火災など、温暖化による酷暑も含めて災害級の事態になることが多く発生するようになりました。日本全国どこにいても、いつ、どのような災害に出くわすかわからない状況です。

ですから、普段からの備えが大切です。

幼稚部は「防災ダック」（幼児から小学校低学年向けの防災教育用カードゲーム）、小学部は「段ボールベッドの組み立て」や「防災カルタ」、中学部は「非常食調理体験」を行いました。全校では、地震や地震に伴う火災発生を想定した避難訓練の後、消防の皆さんに御協力を



いただいて煙体験を実施しました。目の前が見えない怖さや息苦しくなる怖さなど、実際の状況を想定した訓練は、子どもたちにとって貴重な実体験になったと思います。また、煙体験後には、小学部高学年以上は応急処置体験を行いました。

夏休み中に、講師を招いて教職員による救急救命講習も実施しており、学校全体で防災に対する学びを深めることができました。

私は教育方針に「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせる教育活動を推進することを挙げ、今年度の重点には、それらを効果的に推進することを推奨しています。

まさに、本日のような実体験を伴う学びとして、消防車両に触れる体験や煙体験・段ボールベッドの組み立て体験等は、実物や本物に触れる教育活動と結び付



段ボールベッドと床に寝てみて、寝心地を比べてみました。



いていると感じます。そのような実体験をもとにして、実感を伴った知識や生きた経験として幼児児童生徒に身に付けてくれることを期待しているのです。

動画やバーチャルの世界が広がり、どこかに行かずとも、様々な知識に触れることができる昨今です。

そのようなデジタル教材を活用することも非常に大切なことですが、そのような時代だからこそ、「実物・実体験・本物・優れた物」に触れる教育活動の価値が高まるのではないかと考えております。

今週は防災週間として、月曜日には導入のための動画視聴を行い、本日の活動と明後日（3日）に実施する水害に関する避難訓練、金曜日には振り返りのための動画を視聴し、多くの学びがある教育活動週間を過ごす予定にしています。

これらを通して、自分や身近にいる人たちの命を守る行動ができる子どもたちを育てていきたいと考えています。

